やすらぎ

「歎異抄」（第四十五回）

樑暁講述

「歎異抄」第十八章　続き

かつはまた壇波羅蜜の行ともいいつべし。いかにたからものを仏前にもなげ、師匠にもほどこすとも、信心かけなば、その詮なし。一紙半銭も、仏法のかたにいれずとも、他力にこころをなげて信心ふかくは、それこそ願の本意にてそうらわめ。すべて仏法にことをよせて、世間の欲心もあるゆえに、同朋をいいおどさるるにや。

（真宗聖典六三八～六三九頁）

御本尊が無くても、南無阿弥陀仏を称えれば私の前に仏がおいでに成る、いつでもこの仏は私の究極のよりどころ。そして我々が信心を得たものは必ず成仏する。南無阿弥陀仏になる。

死んだらどうなるのでしょうか、誰もわかるものは居無い。

教えに於いて我々、命終えたら南無阿弥陀仏になる。

この世には遺骨が残る、魂があることにしてお墓を作る。あれは、仏教の思想では無く、中国の魂魄思想。それで、お墓を作ったり、納骨堂を作ったりしているが、実際我々は命が終れば南無阿弥陀仏になる。

法然上人がその事を云っておられる。「上人が御遷化なさった時はどこに墓をつくればよろしいのか」の弟子の問いに「いや墓はつくる必要は無い、お念仏の声のするところに源空はおります。」と云われた。これが浄土の教えの伝統です。ですが常識では解らないから、そこまで信心が徹底していないから、だから立派な墓を作らなければ、小さい墓より大きい墓、大小という常識で云っている。

そういう事を元にしてこの異義は出来ている。寄付を沢山した人は大きな仏、少なくした人は小さな仏と云いふらせていることは、全く意味の無い事。

「壇波羅蜜」とは布施波羅蜜のこと。壇とはダーナという、インドの言葉でそれを漢語の音に当てたのが壇。布施をする、少ししか布施をしないというのはつまり聖道門であったら布施の行であるのであって、沢山したからどう、少なかったらどう、という意味では無い。三輪清浄の布施ということがある、施者を見ず、受者を見ず、施物を見ず、そういう事に捉われない事が布施の精神。

「他力にこころをなげて」とは仏の本願力を深く信じてということ。自力のこころをなげすてて、他力を深く信ずるということを表現している、それこそ本願のおこころに叶う事で有ります。と云っている。

「すべて仏法にことよせて、世間の欲心もあるゆえに、同朋をいいおどさるるにや。」これは、坊さんがというか、師匠だと名乗り出している人が弟子に寄付を要請するというのは、やはりそこに、世間的な欲望が有るから、同朋をいいおどしておるのではないか。つまり仏法を標榜しながら根本のところで物欲にまみれている。

真宗会館の掲示板にこの様な事が書かれてあった。「猫に小判というがその小判に迷うのが人間である。」人間の物欲に惑わされる深い迷いがある。

（当寺ご法話抜粋要約、文責副住職釈徹照）

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派　弘興山
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781㈹
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人　池田孝郎

報恩講　十一月一日（日）午前十一時　厳修　詳細は三頁
護持会総会報告　詳細は四頁
子供会報告　詳細は六頁
推進員後期修了者感想　詳細は六頁

子供会　本堂にて

無碍光（むげこう）

―凡夫が仏になる法―

住職　池田　孝郎

この度は、「何故人間は苦悩するのか」をテーマに掲げ考えてみたい。そして、「苦悩を超えるとはなにか」を尋ねてみたい。

私は常々思うことは、苦悩の根源は「比較心」にあると考えている。この「比較心」は、意識、無意識として本来人間はだれでも持っているものです。もっと言えば、あらゆる生きもの全てが本能として持っているといっても過言ではありません。地球に生命が誕生した時より既に持っているといっても過言ではありません。

端的に言えば、「食うか、食われるか」、「敵か、味方か」、「オスか、メスか」を間違えれば、生存も、生命維持も出来ない宿命を荷なっているのです。

その分別を間違えれば生存出来ない存在であることです。

今、地球上に生存している全ての生物は、その選択に適合したものの子孫であると言っても過言ではありません。

わたくしたち人間も例外ではないことです。これを「弱肉強食、適者生存」と言うのでしょうか。

考え方を替えてみれば、現在生存しているものは、皆、「強者」なのでしょう。そして、今、全ての生きものは、勝抜いて生き残りたいとして、一所懸命生きているのでしょう。

わたくしは最近、「クマムシ」という生物の存在を知りました。この「クマムシ」は一・七ミリ以下の小さな生物で、市街地の街路樹の根元のコケの様な下にも生息し、「高温、極低温、真空、高圧、乾燥、水中、放射線」にも耐えて生きているとのことです。おそらくは戦うこともせず、耐えて、耐えて生き延びる力を持った生物でありましょう。

「世界最強の生物」と言ってもよいかも知れません。

人間が「クマムシ」になれといってもなれないでしょう。

わたくしはいつも思うのです。人間は「牙も、爪も、角も、毛皮もない」最も弱い生物が、「大脳皮質」が発達し、「火と道具」を得て、今日、万物の頂点に立ち、最も恐ろしい存在になっているのではないでしょうか。

もっと恐ろしいことは、「人工知能」が、人間の知能を超える日が間近と、現代科学の進歩をニュースは伝えています。

人間がより便利に、より快適に、より幸福に、豊かに生活しようと求めた成果でありましょう。

しかし、考えてみますと、人間が作った「人工知能」によって、人間が作った機械（コンピューター、ロボット、アンドロイド等）に、人間が動かされ、支配されてしまう、まるでSFの世界になってしまう有り様であります。

それが本当の人間において幸せなのでありましょうか。

「人工知能」は「オン、オフ」の「二進法」の「計算機」。このコンピューターが人間の能力を超えてしまう。この「オン、オフ」は、「ゼロ、イチ」、「イエス、ノー」という「比較」の機能の計算能力であることです。

分別を瞬時に計算する能力を人間は手にしたが、「生、老、病、死」は超えられないことです。根本の苦悩を超える教えが念仏です。「念仏のみぞ、末通りたる真実にておわします。」

南無阿弥陀仏。

真の依り処

このいのちを混沌と生かされている私。今までもこれからも、この問いに応えていくのが私の務めであり亡くなった人の願いにかなうことなのか。恩師は諸行は無常であり、又、無常だけが真実であると教えて下さいます。その事を受け止めなければ救われないと。全く自分の思いに反することばかりを生きなくてはならない。口から出るのは愚痴ばかり。いくら愚痴っても何一つ変ることありません。阿弥陀様はどのような人でも見捨てないと申されています。しかし、人間て厄介な者で、自分中心で心からの欲望が離れられない根深いものをもっています。これを捨てよと申されているのです。自分の力ではとても出来ません。佛力の用き（はたらき）をもって救っていただくしかありません。

南無阿弥陀佛、南無阿弥陀佛

岡田ノリ子

鈴の音

仏様をはなれて
自分なく、
自分をはなれて
仏はない

曽我量深

（『曽我量深選集（下）』）

報恩講

・11月1日(日)
・午前11時～3時まで(10時30分受付)
・場所　光照寺本堂
・日中法要厳修
・お斉(お食事)
・法話　志慶眞文雄先生
　(沖縄:しげま小児科医院院長)
・講題　「仏願の生起・本末を聞く」
メッセージ:仏法を聞くということは「仏願の生起・本末を聞く」ということですが、「仏願の生起・本末を聞く」ということは、いったいどういうことでしょうか。マルティン・ブーバーの「我と汝」と唯識で、「讃仏偈」を読み解くことでその お心を尋ねたいと思います。

・最近の先生の著書:
『如来のまなざしの中を』(自照社出版)

※準備の都合上、出席の際は、
一週間前にはお寺にご連絡下さい。

報恩講

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要ですので是非ともご参詣下さい。】

本年は沖縄から志慶眞文雄先生をお迎えして報恩講を厳修致します。先生は素粒子物理の研究をされてから医者になられ、沖縄で開業し、病院の二階に聞法道場を開設して今日まで歩まれています。NHKラジオ深夜便や、NHKのEテレにご出演し、ご存じの方もたくさんおられると思います。平成二十二年には光照寺の旅行で先生のところを訪ねてお話を頂いたのもついこの間のように感じます。

皆様とともに報恩講を勤めて参りたいと存じます。

ご家族、縁者お誘い合わせの上、是非とも奮ってのご参詣をお待ちしております

副住職（釈徹照）

■お知らせ■

「親鸞聖人のみ教えに聞く会」開催

講師　延塚知道先生(大谷大学特別任用教授)
日時　平成二十七年十二月二十四日(木)午後一時半～四時半
『教行信証』をお説き下さいます。
場所　光照寺本堂　会費五〇〇円　是非ご参加下さい。
(延塚先生の初回は九月十六日(水)に開催しました)

一緒にやりませんか？

皆様のお手元に届く郵送物は、役員さんの尽力によって封筒に寺報や案内等を入れ込みしております。部数も多いので大変な作業ですが、歓談もして楽しいひとときでもあります。

私も手伝いたい！ご希望の方がおられたら大歓迎です。

役員有志による郵送物の入れ込み作業

ひとくち 歎異抄

羅漢:親鸞聖人の信心とはいかなるものか。
「詮(せん)ずるところ、愚身(ぐしん)の信心におきてはかくのごとし。」第二章

「親鸞聖人の信心は、愚者(ぐしゃ)になりて往生(おうじょう)する。この一言が愚身(ぐしん)の信心です。」

川越喜多院の五百羅漢

護持会総会報告

淡海　雅子

平成二十六年度第十六回光照寺護持会総会が六月二十一日十時から光照寺本堂において多数の参加者と共に開会されました。

勤行（正信偈同朋奉讃）に引き続き、婦人部の皆様に合わせて仏教讃歌「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「いのち」を唱和しました。

法話は元豊平道場主、現いずみ会館館主佐々木玄吾師に『蓮如上人御一代記聞書』より、「道徳いくつになるぞ　道徳念仏もうさるべし」と題してお話をいただきました。本罪とは何かということから、深く自らを懺悔することすらできない身であることをご指摘いただきました。しかし、如来の果遂の誓いによって、たとえ自力の念仏であっても本願力は我々の闇にはたらきかけてくださっている。「念仏申さるべし」と言う言葉が自らに問いかけられているお話でした。

総会は佐々木玄吾氏を議長に議案に入り、前年度護持会の活動実績及び、護持会収支決算と監査が報告され全会一致で承認されました。本年度は役員改選があり、新たに七名、南袈裟雄氏、清水俊雄氏、清水令子

佐々木玄吾師ご法話

婦人有志合唱

南袈裟雄氏　委嘱状授与

総会の様子

絵解きを聞きいる皆さん

絵解きサークル発表

氏、山根外茂次氏、稲垣美代子氏、横江省宏氏、大塚誠一氏が選出され承認されました。尚、北川登氏が退任されました。

今年度活動計画案及び、今年度収支予算案が提案され何れも原案通り可決承認されました。光照寺旅行は十一月二十一、二十二日に埼玉県内で一泊するバス旅行を企画しております。続いて、副住職様より年間行事、聞法会の紹介、サークル活動の案内と参加の呼びかけがありました。大塚陽子氏より子供会「ポニークラブ」の紹介がありました。

護持会は親鸞聖人の教えの上に成立しており、真宗の教えでないとたすからないという声を、末代まで伝えていきたいと、御住職様より挨拶を賜り、新役員七名に委嘱状が授与されました。

総会終了後、お斎をいただきながら南氏の感話と初参加者の自己紹介がありました。引き続き絵解きサークルによる「王舎城の悲劇」「聖徳太子物語」の絵解き、「アンダンテまろにえ」の方々による演奏と唄が披露され、本堂はにこやかな笑顔と歌声に包まれました。

最後に全員で仏教讃歌「恩徳讃」を唱和し閉会いたしました。

今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「アンダンテまろにえ」の方々による演奏と唄

皆さんと唄いました

推進員後期教習を終えて

南　袈裟雄

四月初旬、光照寺ご住職のお勧めを頂いて、京都・真宗本廟で行われた推進員後期教習に参加、御影堂での帰敬式で仏弟子として歩むことをお誓いして、法名を頂いて参りました。

東京教区からの参加者は、二月に東京で行われた前期教習修了者六名でしたが、東京同朋の会からは推進部門幹事の新井義雄師ほか数名の僧籍の方々が同朋会館の一室で我々受講者と起居を共にされ、早朝勤行に始まる密度の濃い三日間の教習日程を無事に勤めることができるようご指導いただきました。また、夕食後の連夜、受講者と指導役との座談会が開かれ、率直な意見交換が行われたことは、印象深く、得難い経験でした。

帰敬式を終えた日の夕刻、桜の花が散り残る会館の食堂で、遠くオホーツク沿岸の街からの団体で参加された老年の夫妻から、京都本廟に参ることが永年の夢でしたがやっとその念願が叶いました、と目許を潤ませながら話されるのを伺って、私自身の信心の浅さを内心恥じたのでした。

子供会報告

子供会ポニークラブ
バーベキュー&水あそび

坊守　池田　邦子

二週間余り猛暑の続いた今夏でした。八月二十一日（金）大人十四名、小人九名の参加、日野の佐々木先生ご夫妻の紹介で、さいたま市在住の有久さん親子の初参加もありました。勤行と自己紹介、陽子さんの「諸行無常」のお話し後、親鸞聖人立地での、恒例のバーベキューと水あそび、台風十五、十六号の影響を心配しましたが、ときおり吹く風にほっと一息し、別所公園での宝さがし、谷口さんのトランプマジックに目を皿にして見入りました。又、かき氷を食べお腹すっきり、楽しい一日を過ごしました。次回十二月十九日（土）子供報恩講を予定しております。御参加をお待ちしてます。

大塚陽子さんの仏様のお話

准坊守恵美さんの紙芝居

子供のために料理します

焼肉もすばやく焼いて

親鸞聖人銅像前にて

料理美味しかった

みんな涼しい

谷口さんのマジック

はじめての水遊び

有久さん家族

恩徳讃で終了

かき氷美味しかった

お知らせ
―寺務所より―

◆法要のご案内

●報恩講
十一月一日（日）午前十一時より厳修。講師は志慶眞文雄先生（しげま小児科医院院長）

●修正会
平成二八年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致しましょう。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会
講師は延塚知道先生（大谷大学特別任用教授）十二月二十四日、午後一時半～四時半。（初回は九月十六日に開催しました）

●大経の会
十月二十四日、十一月十五日、十二月二十日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。『正信偈讃仰五』を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会
十月六日、十一月十日、十二月三日、午後二時～四時まで。「真宗の簡要」（住職著）サブテキスト「無量寿経に聞く」（松原祐善著）を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎
毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学・親鸞における現生不退の視座・（副住職著）サブテキスト「今日のことば」「真宗の生活」を学んでいます。十月十九日、十一月二十四日、十二月二十一日。

◆さいたま親鸞講座
午後二時～四時。会場は大宮川鍋ビル。十月十日、十二月十二日、平成二八年二月十三日。

◆お願い
ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。
住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳

吉澤　光昭

横穴の陵深し秋日入る
比企丘陵花野は全て我のもの
新酒売る売娘に迷う道の駅

山田　恒

真夜中のメールに星が一つ消え
残暑なか小さな秋が零れ落ち

釈　義深

老いたれば総ての役は降りて去る
老いたれば孫子に宝ら分け与ふ
老いたれば老妻と語る浄土論

短歌（詩）

佐々木　玄吾

夏休みチャレンジブックに挑戦の
子どもとすごす朝のひと時
組内のそうめん流しは恒例に
ありて今年も挨拶交わす

赤秀　品枝

先達の熱き願いは真実なり
六十年も続いたことは
窓越しに眺める月は青白く
熱中症の話題も過ぎて

篠原　潤子

足わるい婦人が窓辺にランプ点け
道ゆく人に喜ばれてる
海越えて息子の側の特養に
八十五才ヨネ伯母が来た
塩かげで写真も何もなげできた
新生活のホームで伯母言う
叔父さんと共に仲よく半紙出し
書道のアレコレ我に教える
フライパン小さいコンロに載せて
焼く鮭の切り身を有難く食む
帰りぎわ函館弁をふともらす
伯母と腕くみ笑いころげる

梵鐘

仏の説きたまう教えを学ぶ

仏の説きたまう教えを学び、如来の心がわかることが大切である、正像末和讃の「如来の作願をたずぬれば苦悩の有情をすてずして回向を首としたまいて大悲心をば成就せり」と、如来の本願を明らかにされている、回向とは自己（如来）の全体を衆生に届けようとする働きであり、これを如来の本意という、教行信証を頂くとは如来の働きにであって本当の信と証を得ることであり、如来の御本意が届いたことである。如来が南無阿弥陀仏となって、自己の全体を届けようとするところに本願がある、それを回向という。

合掌
釋尼民徳

山田　邦興　画